

三菱UFJリースグループのリスクマネジメント

持続可能な成長に向けて、 リスクマネジメントはますます重要に



野々口 剛
専務取締役
コーポレートセンター 担当

当社グループでは、中長期の環境変化を見据えて、社会的課題の解決に貢献することで企業価値を高め、持続可能な成長を目指しています。そのためには昨今のように、事業環境の変化が激しい状況下においても、経営の健全性を確保することが可能な強固なリスクマネジメント態勢の構築がますます重要になっています。

■ 多様なビジネス展開を可能にするリスク評価

当社グループでは近年、海外ビジネスを拡大するとともに、多くの事業分野で新たな事業機会を創出してきました。

こうした多様なビジネス展開において重要になるのが、ビジネスに対するリスクの評価です。当社では、ビジネスごとにプロファイルを精査し、取引の性質やアセットの特性を深く理解することで、これらを踏まえた最適な方法でリスクの評価を行っています。

グループのさまざまなビジネスについて、網羅的にリスクを把握し、共通の尺度で定量化することで、グループ全体としてリスクの状況を的確に管理し、適切にコントロールすることが可能になります。

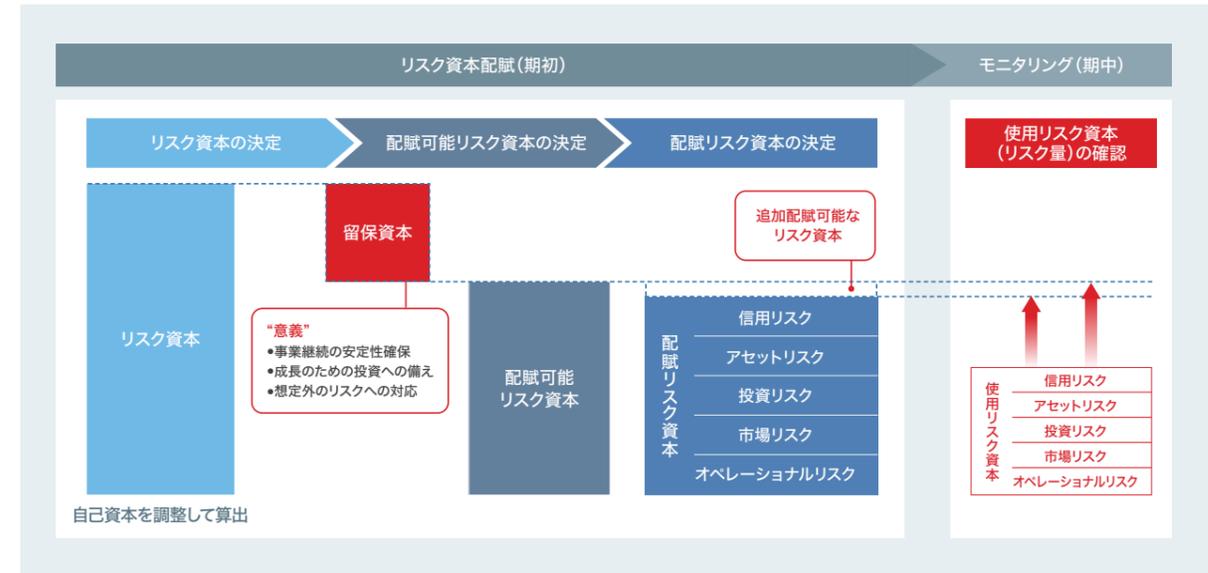
■ 健全性を支えるリスク資本運営

このリスクの定量化をベースとして、経営（財務）の健全性を維持しつつ、収益性および資本効率の向上を図るために、統合リスク管理の枠組みを組み込んだ事業運営を行っています。

健全性の確保に向けては、当社のリスク資本管理方針に基づいて、毎年グループ全体のリスク資本運営計画を策定しています。リスク資本運営計画は、グループ全体の投資計画を踏まえて、リスクの変動や資本の十分性、投資余力などを十分に考慮した内容になっており、トップマネジメントや関係部が出席するリスク管理委員会で内容を審議した上で、常務会で承認、取締役会に報告しています。

期中においては、定量化したリスクによるリスク資本の使用状況に加えて、各種ポートフォリオの状況、市況変動や業界動向なども定期的にモニタリングを行っており、経営体力の範囲内でリスクを適切にコントロールする管理態勢を構築しています。

■ 健全性確保のためのリスク資本運営



■ 個別取引まで統合した管理態勢

こうした全社的な統合リスク管理と、個別取引の取り組み目線が整合的であることが重要です。当社グループでは、一定金額以上の投資案件については投資協議会を開催し、リスク評価に基づく資本コストに見合うリターンを確保できているのか、という観点から検討しています。また、こうしたリスク・リターンの観点に加え、事業性、財務、法務など、さまざまな見地から専門部署のエキスパートが検討・協議をした上で、マネジメント層による取り組みの可否の意思決定がなされています。個別の投資取引の内容がますます多様化・複雑化する中、このように多面的な角度からリスクを検証し、それにふさわしいリターンを追求する仕組みを築いています。

また、それ以外の個別の取引についても、資本コストを反映した投資目線のガイドラインを適用しています。このように、マネジメント層を中心とした全社的な統合リスク管理から、部門が検討する個別取引の取り組みの目線まで、リスク評価を軸とした一貫通貫の管理態勢を構築しています。

■ 持続可能な成長を目指して

外部環境の急速な変化や不透明感が増す経済・社会情勢を踏まえ、さまざまな状況を想定した事業運営が従来以上に必要になってきています。

このため、新中計をスタートさせるにあたっては、複数の将来シナリオに基づくストレステストを実施して、多面的な検証を行い、当社グループのリスク耐久力を確認しています。また、ポートフォリオ運営においても、国・地域、与信先、アセット種類などの集中リスクを避けるため、各種クライテリアや、大口与信限度額の遵守状況などについて定期的にモニタリングを行い、ポートフォリオの分散に努めています。

加えて、主要なアセットについては、業界動向やアセット価値変動に影響を及ぼす兆候を定期的に点検し、必要に応じて事業運営に反映する予兆管理態勢の強化にも努めています。

新しい領域にも裾野を拡げ、持続可能な成長を目指すためには、今後は新たなリスクの発現や想定外の事象に対しても、柔軟かつ機動的に対応できるよう平時より備えておくことが重要と考えています。社会への価値創造を継続し、企業価値の向上を図るために、リスクマネジメント態勢のさらなる高度化に取り組んでいきます。

リスクマネジメント態勢の概要 P50